

ものがたりとアート展

秋田ではじめての本格的な現代美術館であるフォーエバー現代美術館ギャラリーは現代美術の楽しみ方を展覧会を通してご紹介しております。

本展では、「ものがたりとアート展」と題しまして、国内外の作家が描いた童話や昔ばなし、そして小説など「ものがたり」の挿し絵を中心とした展示をいたします。本展では、挿画である作品に加え、作品制作の題材となった物語もパネルとして展示することで、展示空間をひとつの絵本として構成し、美術館で鑑賞者が物語の世界を体験できるようご用意いたしました。

物語とアートは、絵本や絵巻が代表するように、古来より密接な関係性を持ってきました。文筆家が、名画に触発され小説やエッセイが生み出されることがあり、一方で、画家が文学に触発されて絵筆を走らせることもありました。そうした中で、本展では、日本のおとぎ話（「こぶとり爺さん」等）に触発されたシュルレアリズムの巨匠であるサルバドール・ダリが、それら日本のメルヘンをテーマとして世界を描いた版画シリーズ、同じくシュルレアリズムの作家ロベルト・マッタが、アルチュール・ランボーの小説「地獄の季節」に触発された版画集、そしてわが国の戦後現代美術の巨匠である高松次郎が後期、"曲線による有機的な形態をもつ絵画技法"への展開のきっかけとなった、宮沢賢治の童話「水仙月の四日」のための版画集などを展示いたします。

一見難解に思われる現代美術作品ですが、物語という美術家たちと鑑賞者をつなぐキーワードをもとに、ビジョンの共有を楽しんでいただくことができれば幸いと考えております。また、会期中、朗読者による物語の朗読会を企画いたしております。そうした機会により、一層アートを体験する楽しみをご提供できれば幸いと願っております。

フォーエバー現代美術館
チーフキュレーター 加藤 淳